



vol.1

## みんな元気に輝いて生きる

発行:名張育成園MIRAIプロジェクト 社会福祉法人 名張育成会 TEL 0595-65-0271 FAX 0595-65-2936  
発行責任者:市川知恵子(社会福祉法人名張育成会) 編集責任者:池上祥二(社会福祉法人名張育成会) 編集長:佐伯典昭(株式会社サンエイ) 編集デザイン主任:新井知子(株式会社サンエイ) 題字・イラスト:千秋育子

### Contents

- Art** 感性を知る…  
今日は、和紙漉きアート
- People** 障害者の自立した  
暮らしぶりを紹介
- Eye** 地元高校生の見た福祉とは…
- Work** 福祉で頑張る人たち

発行:名張育成園MIRAIプロジェクト



### Art

育成園の就労支援施設「レインボー」の玄関に立った時、まず目に入ってくるのが、この大きなオブジェ。たたみ一畳もあるその大きさにまず驚かされるが、近寄ってよく観察してみると「溜め漉き」という平安時代以前から行われている手法で漉かれる和紙に、木の実や草花のドライフラワー、またすすきや落枝といった素材を散りばめ、更にその上から幾重にも溜め漉きが施されることで、和紙と自然が調和した居心地のいい造形美が生まれているのが、よくわかる。作者の持つ生まれたものであろう自由で上質なバランスの技である。

また、草木染めによってパステルカラーに塗り分けられた作品は、落葉の季節に相応しい優しさと、これから厳しい冬を迎える自然界の心構えといった、凛とした力強さが上手く表現されている。

この作品は、和紙の原料であるガンビ(白樺の樹皮)やコウゾ(落葉低木など樹皮)のアクを抜き、叩き潰すといった材料作りから行うのだが、日本原文化とのコラボレーションは、巧みな配色や繊細な風合いもあり、わたしたち日本人の心にフィットする。だからか、オブジェの前にひとり立つてみると、秋から冬に移ろうピュアな気持ちになっていくからなんとも不思議である。

ところで、この作品の作者は、菅尾博司さんと云う自閉症の利用者である。自閉症の特徴は、コミュニケーションがとても苦手なこと。例えば、場の空気を読むとか、相手の目を見ながら

お話をするとか、質問に答えるなど、「会話(コミュニケーション)」を苦手とする方が多い。

反面、記憶力が驚くほど優れていたり、またルールに忠実であったり、それに増して集中力が優れているといった、飽きっぽい私たちが羨ましいと思うようなことも良く云われている。

育成園では、自閉症始め、知的障害者の潜在的な創造力を発掘し、そういった能力を活かした作品作りを支援しているが、実はこの作品も、菅尾さんと、当時スタッフとして担当していた水野千津さんのコンビネーションによって造られている。何せタタミ一畳もある大作である。紙漉き作業を一人で行うだけでも大変な苦労が伴う。

この作品が出来上がるまできっと時間もかかったであろうと思われるが、菅尾さんは会話が苦手なだけあって、コミュニケーションがまったく取れないと云うことではない。二人に言葉のやり取りはなかっただろうが、自分の意思を伝えようとする菅尾さんと、その気持ちを聴き逃すまいとする水野さんの、相互の信頼によって、菅尾さんの創造性が活かされ、生み出されたわけだ。

作品として見ごたえのある素晴らしいものに仕上がっているが、障害者の持つ潜在能力を引出し、人として生きる喜びを見出すというプロセスがあることを知れば、この作品の良さが更に引き立つ。皆様も、機会を見つけて是非ご覧になって頂ければと思う。

(文:千秋育子)

### Essay

ピカソが、晩年になって「ようやく子供のような絵が描けるようになった」と言ったという有名なエピソードがあるが、アートというのは、突き詰めると難しくなる一方だが、結局は、一番ピュアに返った自分が、自然に表現するものなのかもしれない。

誰にでも絵は描けるし、正解はないものなので、自由に描く、ただそれだけなのである。しかし、大体のひとは、たったそんな簡単なことができない。意識が先行してしまって、他人の評価が一番の軸となり、真似に始まり、常識だったり流行を追ってしまうという

悲劇から抜け出せない大人になってしまう。

しかし、そんなことに惑わされない自分の道をただひたすら歩む人たちがいる。例えば、自閉症のひとの作るアートは、他人の目など全く気にせず、好きなように表現していて、面白い。よく見せようと、あり当たりな手法も使わない。一体何を考えて作ったアートなのか考えてしまいそうだが、到底私には、わかるはずもなくそれがアートで、何も私がムズカシイことを考える必要もなくそのまま感じればいいのである。

そう、一番、大切にしたいのは、見る側も感じができるような心具合であるのかどうかということである。高い絵が、気になるのは、わかる。しかし、ハートで感じるアートが、自分の栄養剤になっているのには、間違いない。



千秋 育子(イラストレーター、エッセイスト)

愛すべきヒーリングアートの第一人者。  
書道七段を活かしたカリグラフィはじめ、イラスト、エッセイなどは、どれも温かさに溢れ、手に取る人を和やかにする。  
アラン・デュカス氏大阪初のプロデュースレストラン「ル・コントワール・ド・ブノア」店内画は、すべて彼女の手による。  
その他、気さくな人柄や豊かな感受性から生まれるイラスト、ブランドマーク、ウォールペイント、エッセイ、出版など、幅広い分野での作品多数。

<http://www.sensuyasuko.com/>  
<http://sensuyasuko.iza.ne.jp/blog/>

# People

## 玉置盛一さん(30)

名張市の三ツ池工業団地——。広く開放感ある工場で、玉置盛一さんは得意の電動エアードライバーを器用に操り、瞬く間に部品を解体していきます。ここは株式会社LIXIL(前トステム)名張工場。入社6年目の中堅社員で、職場の仲間からも頼りにされている存在。「解体すること自体が好き」と笑う玉置さんの素顔に迫りました。



「自閉症」である玉置さんは昭和59年10月に名張育成園「児童寮」に入所され、現在はグループホーム「すばる」にて地域で生活をされています。

平日の起床時間は午前7時。朝食を済ませ、40分には工場へ出勤。玉置さんが担当するのは、サッシの部品を再利用するものや廃棄するものなど約30種のパーツに分類する仕事。

大小様々な部品のネジを一つ一つ丁寧にバラし、瞬く間に解体。プラスチッ

クや鉄製品などもう一人のパートナーと息の合った仕分け作業を続けています。「ケガのないよう気をつけている」という玉置さん。電動エアードライバーを使って解体するこの作業が大好きだそうです。

自身の仕事内容を100点と、自信を持って答える玉置さん。「手先が器用。何より力持ちで、一人で重い扉も運んでくれるんです」と話されるのは株式会社LIXIL総務課壇井香さんの評。職場で頼りにされている人気者の玉置さんです。

帰宅するのは午後6時過ぎ。午後7時ごろの夕食までは好きな音楽鑑賞の時間です。アニメ音楽が好きだという玉置さんのお気に入りは、「ワンピース」や「アンパンマン」。

また、乗り物好きの玉置さんは電車、特に新幹線が好きで、乗り物のDVD観賞なども楽しむそうです。

そして、午後8時前には入浴を済めし、午後10時30分には就寝、翌日の仕事に備えます。

平日から一転、休日には部屋の掃除はもとより、ショッピングなどの外出も楽しむ玉置さん。週1回は近所のプールへ泳ぎに行ったり、3か月に1回はヘルパーさんや支援者に付き添われ、新幹線や船に乗りに出掛けるのが楽しみだとか。

また、育成園の太鼓クラブにも所属。他のメンバーとともに、練習に励み、育成園まつりなどで、地域の皆さんとの前で、腕前を披露しては、好評を博しています。

さらに、スポーツマンとして的一面も持つ玉置さん。フリスビーの腕前は全国レベルで、障害者によるフライング・ディスク大会では全国大会への出場経験も少なくはありません。

今年も山口県で開かれる全国大会に出場を目指し練習に余念がなく、「優勝をめざしたい」とのことです。

玉置さんの夢は「いつかバスの運転手になること」。充実した日々を送りながらも、夢を見ることをあきらめない玉置さんでした。



昨年行われた、三重県障がい者スポーツ大会での様子

今回お邪魔した株式会社LIXIL社は、トステム時代の1992年に障害者雇用促進を始められ、2001年9月より工場内に育成園作業場を開設。以降、10年にもわたるお付き合いをいただき、多数の障害者が活躍しています。

## LIXIL

Link to Good Living

住生活グループ傘下の事業会社(トステム、INA X、新日軽、サンウエーブ工業、東洋エクステリア)は2011年4月に統合し「株式会社LIXIL」としてスタートを切りました。  
LIXILとは住=LIVINGと生活=LIFEを掛け合わせた「住生活」そのもの。  
住まいや暮らしに関するさまざまなニーズにお答えします。



# New

## Event



日中活動場所「さんさん」は、成峯・成美の入所者のみなさんが利用する新たな場として9月1日に開設しました。生活の場と仕事の場を明確に分けることで「仕事へ行く」「活動場所へ出かけていく」という生活スタイルを実現するのがねらいです。

建物は高台の自然に囲まれた豊かな環境と天然木をふんだんに使用したエコに配慮。西棟と東棟に分かれ、特に西棟の食堂は天井も高く開放感あふれる空間。芝生もまぶしい中庭は利用者の絶好のリフレッシュ場所になっていきます。

平日の午前9時から午後4時まで、それぞれの作業場で仕事に集中。ここではタッパーや弁当箱の組み立てからラッピング、木工細工や陶板作りなどが中心。

開設当初は、新しい環境にとまどつたりする利用者の方もいたそうですが、今はそれが自分たちの居場所が分かって来たようで、落ち着いて作業に取り組んでいるそうです。

また、ここで出される「とも」の弁当が評判を呼んでおり、弁当だけを食べに来る方もいるそうです。

月日	曜日	時間	場所	行事名	育成会イベント内容
11月12日 ～13日	土 日	10:00～ 16:00	総合福祉センター 「ふれあい」	ハート&ハートフェスタ	和紙づくりの体験や、 クッキー(※1)を販売します  詳しくは、名張市ボランティア協会にお尋ねください。 電話:0595-48-6160
11月13日	日	12:30～	名張商工会議所	近鉄ガス展	太鼓クラブが出演します
11月19日	土	13:00～ 15:00	桔梗が丘中学校	桔梗が丘中学校バザー	クッキーを販売します (※1)
11月23日	祭	9:00～	美旗市民センター	美旗市民センター祭り	ワークセンター・東部保育園の作品展示と、模擬店を出店します
12月10日	土	16:00～ 18:30	名張育成園一帯	イルミネーションイベント (※2)	育成園が、色とりどりに彩られます



※1 「とも」で焼いたクッキーを販売します。プレーン味・コーヒー＆くるみ味・紅茶味・レーズン・シュークレ味の4種類があり、どれも1袋100円。シンプルに焼き上げたクッキー、お口の中で味わいが広がります。



※2 イルミネーションイベントは、育成園がもっとも華やかに彩られるビッグイベント! 模擬店や様々な催しを行い、いつも多くの来場者で賑わいます!!

# Eye OO

地元高校写真部によるフォトメッセージ。障害や福祉を高校生の目線で捉え、私達福祉関係者ではわからない視点で、広く現状をお伝えしようというものです。これからどのような紙面企画に発展させていくのか、高校生のみなさんと共に創造していきたいと思います。

第1回目は、県立名張桔梗丘高校写真部の皆さんに、育成園で暮らす子供達の日常を撮影してもらいました。

読者のみなさんのご感想、ご意見をお待ちしております。

「ほら、見て見て」  
(関本 有紗)



「どやっ!!」(鷹野 鈴夏)



「ばあっ!!」(鷹野 鈴夏)



2歳の男の子が丘  
を登っています。  
可愛いです♡♡  
(竹森 えりか)



「風を切って」  
(兼 奈津実)



## Symbol

発達に障害のある子どもたちが、大きくなって、自立して暮らしていくける…昨年末「こどもライフサポートセンターはーと」が竣工したのを機に、そんな

私たちの思いを、シンボルマークや子どもたちへの三つの約束として、イラストレーター千秋育子さんに描いてもらいました。



わたしたちの思いを形にはーとのシンボルマークができました

人がバンザイ!!をしたらハートになる。わたしたちは、どんなときにも、この笑顔と両手いっぱいに表わした愛を持って「寮育(りょういく)」を行って行きます。

子どもたちへのお約束  
私たちから子どもたちへのお約束。  
三つのふれあいビジョンです。



時間がかかるけど、  
ちょっと「手を添えて」  
あがる。



わがままに見えるけど、  
かたわらで「ゆっくり」  
お話しする。



そして何より、  
その子どもに宿っている  
「力」を信じてあげる。

みんな元気に輝いて生きる! 子どもたちだけでなく、私達スタッフも輝いていたい。そして輝いた街にしたい。  
そんなことを願いながら、三つのふれあいビジョンを心がけ、毎日頑張っています。



新しくなった中庭(撮影:名張桔梗丘高校写真部 竹森 えりか)

ホームページを是非ご覧ください。はーとを紹介する絵本「アサムとマヒル」がデジタルカタログでご覧になります。  
また打合せの様子などもご覧になれますよ!  
<http://www.n-ikuseien.jp/>



# Work

## 臨床心理士・川端恵里佳さん (こどもライフサポート はーと)

育成園初の臨床心理士として、はーとで活躍する川端さん。現在は、伊賀地域の巡回相談員としても活躍されています。入社から3年、八面六臂の活動を見せる川端さんに仕事の話をお聞きしました。

——臨床心理士を選んだきっかけは？

「高校の時から臨床心理士を目指していました。大学院に進学する前に、伊賀市内の小学校で特別支援学級の介助員をしました。その時の経験から子どもたちに興味を持ち、この道を目指そうと考えたのがきっかけでした。縁あって、平成20年の4月に育成園に正式採用されました」

——お仕事の内容を教えてください。

「はーとでカウンセリング等に携わる業務を中心に行い、伊賀地域の小・中

学校や幼稚園、保育園等からのご依頼があれば訪問して、お子様とその保護者様等の相談に応えています。」

——職場で第1号の臨床心理士ということで、苦労されたこともあったと思いますが？

「現場の職員の皆さんや地域の学校の先生方や関係機関の専門職の方とは立場が異なる場合があるので、意見が分かれることもあるのですが、日々よりよい連携を考えています。また、子どもたちは日々変化していくので、その節目、節目に立ち会えるのはすごく楽しいし、とてもやりがいがあります。それに、障害を持つ、持たないに限らず子どもたちが頑張っている姿を見て『生きる力』を感じさせてもらっています」

——今夏、デンマークへ視察研修に行



かれたそうですね。

「はい。9日間の日程で、約10の施設を回って勉強してきました。デンマークは国を挙げての福祉が充実しています。それに子どもから成人まで対応している施設が日本国内には少ないため、大変参考になりました。『子育て文化』というテーマでしたが、かなり刺激になりました」



ご両親にお聞きしました。

——娘さんがこの道に進んだ当初、どのようにお感じになりましたか？

「今まで培った技術と経験を生かし、ひとつの施設の中で支援ができるようになり、良かったと思います」

——今は、どのように感じておられますか？

——最後に、抱負というか、夢を聞かせてください

「さまざまな子どもがいるので、個別に対応するには、さまざまな世界を見てこちらが視野を広げないといけないと思っています。あと、個人的には旅行が好きなので、世界遺産巡りなんかしてみたいです」



## 福祉は、生活をする上で困難や課題を抱える人に、

## 寄り添い、支えるプロフェッショナルな仕事

皆様は、「福祉」と聞いて、どんなイメージを思い浮かべますか？多くの方は、高齢者や障害のある方の介護や、病気などで毎日の生活に困っている人を助けるといったイメージを持たれていのではないでしょうか。しかし、近年では少子化や高齢化、家族構造の変化、不景気による失業者の増加など目まぐるしく変わる社会環境により、福祉は以前に比べ、より身近なものとなっています。それは、福祉が病気や障害のみならず、生きていく上で様々な困難

や課題を抱えている人に寄り添い、支えていく仕事であるからです。また、住み慣れた地域でその人らしく、「安心・安全」に、よりよい暮らしができるようにサポートすることも福祉の大切な仕事となっています。

支援を必要としている人のかたわらに寄り添う…福祉は、その人の生活のこだわり・流儀やその時々の感情を受け止め支えることで、人間だけにできる営みです。そして同時に、非常に厳しく、誰にでもできるほど簡単なもので

はありません。ですから、福祉業界を目指す方には、勉強と経験を積んで、「福祉のプロフェッショナル」として活躍していただきたいと思います。

名張育成園では、そのようなプロを目指す方の熱い想いを汲み取り、それが実現できるよう応援しています。

# Message

今年も早いもので残すところ1か月余りとなりました。今年は、東日本大震災や紀伊半島の台風による甚大な被害、また外国でも大雨被害による浸水や、紛争等生活に不安な事が多く発生した年がありました。

さて、今回の広報紙の発刊にあたり法人の思いを述べさせて頂きます。

名張育成会はライフステージに添った福祉サービスを行って53年目、当時は施設入所を中心に支援を行ってきましたが、昨今では住み慣れた家や、地域で暮らし続けることが当たり前の時代になり、またそのような制度にもなり

ました。

名張育成会は一貫して、子どもの療育・支援・児童施設は18歳まで、成人は地域生活に移行することを目標として取り組んでまいりました。これらの実践には、環境の整備はもとより、なにより住民の方に、少しでも活動をご理解いただけるよう推進することが重要です。

法人として平成8年から年次計画に基づき施設整備を順次進めてきましたが、近年では地域に焼き菓子と喫茶の活動場所を開設し、保育園の経営、児童施設の改築と日中の受け入れ資源を整備。生活介護事業では、昼の活動場

所として約900m<sup>2</sup>で「さんさん」を開設。また、今年度内完成を目指し、市内の住宅団地内に3棟約1000m<sup>2</sup>の新通所施設の整備と街中にケアーホームを整備します。更に生活介護事業のパン作り工房を計画し、障害者の自立向けた地域生活支援と、また地域との共生を目指し環境を整えてまいります。

ただ、現状の課題として、地域生活を直接支える最大の支援者は、ケアーホームの支援者とホームヘルパーです。支援者の確保が最大の課題です。利用者本人が安心して地域で生活ができる

社会福祉法人 名張育成会 理事長 上村 友則

支援体制の構築と、名張育成会で働きたいと言われる職場環境づくりにも更に努力してまいります。

今後も社会福祉法人の制度と使命についての認識を新たにして、既定の事業実施にとどまらず時代に即した事業経営・実践をすすめ、利用者家族はもとより、地域住民の方々、また行政・関係機関に安心安全を提供し続けられる法人として役職員一同思いを一つにして取り組んで参ります。

ご一読頂き、ご意見等頂ければ幸いです。